

豊洲新市場整備方針及び施設の概要

豊洲新市場整備方針 (平成21年2月)

生鮮食料品を扱う市場として食の安全・安心を高いレベルで確保し、50年先まで見据えた新たな首都圏の基幹市場として豊洲新市場を整備する。

1 土壌汚染対策

「豊洲新市場予定地の土壌汚染対策工事に関する技術会議」の提言をもって都の土壌汚染対策とする。

- 経費 586億円、工期 20ヵ月
- 対策の具体的内容

遮水壁の設置から盛土の掘削、地下水の揚水・浄化、土壌の掘削・運搬、汚染物質処理、液状化対策、砕石層設置、地下水の管理までの一貫した対策 ⇒別紙2参照

2 豊洲新市場開場時期及び整備スケジュール

豊洲新市場開場時期 平成26年度中

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
土壌汚染対策	環境影響評価 都市計画決定 詳細設計 (発注手続含む)	土壌汚染対策工事 (20ヶ月)			開場
市場建設業		基本・実施設計 (発注手続含む)	建築工事(30ヶ月)		
用地取得のための鑑定評価	鑑定評価	※鑑定終了後、速やかに用地取得			

3 豊洲新市場整備総事業費

3,926億円 <内訳>

建設費	990億円
土壌汚染対策費	586億円
基盤整備費	370億円
用地費	1,980億円

施設の概要

1 施設規模

- 敷地面積 40.7 ha (護岸含む面積 約44 ha)
- 延床面積 37.1万㎡ (市場基幹施設、付加価値施設)
- 施設内容

- ・市場基幹施設
卸・仲卸売場、管理施設等
- ・付加価値施設
加工パッケージ施設、転配送センター、冷蔵庫等
- ・千客万来施設
「食」を中心とした東京の新たな観光名所として、民間事業者により開発整備

2 主な特徴

- 効率的な物流の確保
- ・広い荷捌きスペースの確保
- ・十分な駐車場の確保
- 「食の安全・安心」に配慮
- ・閉鎖型施設
- ・搬入から搬出までを温度管理する「コールドチェーン」の確保
- 環境への配慮
- ・太陽光発電(2,000kW以上)の導入による自然エネルギーの活用
- ・敷地内緑地や屋上緑化等(約12ha)によるヒートアイランド対策
- ・アイドリング対策用外部電源の整備、場内搬送車両の電動化

3 配置計画図(主な施設)

